

被災地の復興における地域色の維持と人口流出の問題に関する一考察 On Management of Local Feature and Population Outflow from Disaster-Affected Regions

○小谷仁務・横松宗太・岡田憲夫

○Hitomu KOTANI, Muneta YOKOMATSU, Norio OKADA

Population outflow from disaster-affected regions sometimes happens. One reason for this problem is caused by the weakening in local feature triggered by disaster. Thus, it is needed to consider keeping local feature in the recovery process, and taking countermeasure to prevent population outflow.

This study considers the relationship between local feature and population outflow and formulates an identity-formation model, focusing on identity and education. In this model, it is supposed that identity can be selected by each individual. As a result of this analysis, it is shown that to enhance attachment to their home region is important to prevent population outflow.

1. 災害と人口流出

災害後のインフラ施設の復旧や衛生環境の改善は、被災地の早急な復旧のためにも、当然必要とされる対応である。ただ、より長期的な観点では、物的な復旧のみならず、質的な側面にも目を向けた対応が必要である。質的な側面とは、地域に脈々と流れる魅力や誇りといった地域の個性（以下、地域色と呼ぶ）である。それらは、地域の景観や町並み、あるいは祭りや文化財といった地域固有のものから表出していると考えられる。災害においてそれらが長期的に被害を受けたままで、早急な復旧、復興がなされなければ、地域色が弱まる可能性がある。結果として、地域住民の地域への愛着が薄れ、地域を去る可能性も多分に存在する。人口の流出は、地域の低密度化による行政サービスの負担の増加を招く、あるいは、地域の祭りやイベントの担い手の不足を引き起こすといった問題を発生させる。人口流出が続き、それに関連する問題が山積すれば、地域の存続が危ぶまれるだろう。したがって、人口流出を防ぐ手立てを物的側面のみならず、地域色という観点からも考える必要がある。

2. モデル

本研究では、人口の流出を招く原因の1つを、災害によって地域色が弱まることと考え、それが人々の選択行動に与える影響について分析する。分析の手法として、地域色、教育そしてアイデンティティに注目したモデルを用いる。本モデルに

おいては、アイデンティティは複数個存在し、その中から個人が選択できるものと仮定し、その選択に関する問題を定式化する。選択可能なアイデンティティとして、1.「実践者」（地域で暮らし、地域に愛着を持つため地域色を強めることに貢献する人）、2.「無気力者」（地域で暮らすか、地域には無関心な人）、3.「都市転出者」（仕事を求め、地域を離れる人）、の3つを考える。実践者と都市転出者のアイデンティティにはそれぞれ理想像があり、自分の能力が理想像に近いアイデンティティを選択するという構造になっている。また、本研究では地域色を伝えることを、「教育」と呼び、教育により地域への愛着が増すものとする。よって、教育やその他要因が人々のアイデンティティの選択に与える影響も分析する。そして、人々が実践者としてのアイデンティティを選択することを促す仕組みや制度について検討する。

3. 地域の復興への示唆

分析の結果、地域への愛着が少なければ、無気力者あるいは都市転出者となる割合が高まることがわかった。住民がイメージとして持つ地域の原風景と復興後の地域に乖離が大きければ、住民の地域への愛着が薄まってしまう。したがって、このことは地域を離れる要因となりうる。そのため、被災後の地域の姿を原風景に近づけるような復興がなされ、被災者自らが地域への愛着を取り戻していく仕組みや活動が必要といえる。